

第 14 回アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 大臣級会合の結果概要について

平成 25 年 12 月 24 日

内閣府 原子力政策担当室

- 1.開催日時：2013年12月19日(木) 9:20～17:15
(12月18日(水)に上級行政官会合を開催)
- 2.開催場所：三田共用会議所(東京都港区)
- 3.主催者：内閣府、原子力委員会
- 4.参加国：オーストラリア、バングラデシュ、中国、カザフスタン、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム(各国代表者は添付1を参照)
- 5.我が国の主な出席者：

山本 一太	内閣府特命担当大臣(科学技術政策)
近藤 駿介	原子力委員会委員長
鈴木 達治郎	原子力委員会委員長代理
秋庭 悦子	原子力委員会委員
町 末男	FNCA日本コーディネータ
尾本 彰	東京工業大学特任教授
中野 節	内閣府大臣官房審議官 他



第14回FNCA大臣級会合 集合写真

6. 会議の概要 :

FNCA 参加国から大臣級代表(大臣2ヵ国、副大臣3ヵ国、原子力行政機関長他)が一堂に会し、これまでのFNCAにおける放射線利用及び原子力発電に関する様々な取組の成果が報告され、今後の活動に対する指示が決議案として取りまとめられた。

「FNCA プロジェクトの成果の活用」に係る円卓討議においては、放射線利用の有用性や効用をしっかりと発信することがFNCAのような国際的な枠組みの大きなミッションであることが確認された。「核セキュリティ文化の醸成」に係る円卓討議においては、我が国から、アジア地域の核セキュリティ文化醸成に向けて、日本が積極的に貢献するための方策が提案された。

また、福島第一原発事故に係る情報発信はFNCAに期待される重要な役割の一つであり、廃止措置へ向けた取組の現況や今後、汚染水対策等について、経産省より詳細な説明が行われた。(プログラムは添付2を参照)

(1)開会・歓迎挨拶

開会にあたり、山本一太内閣府特命担当大臣が開会・歓迎挨拶を行い、各国参加者に対して歓迎の辞を述べると共に、FNCA という枠組みでの原子力分野での協力活動が、各国の社会経済的発展と国民福祉の向上に一層効果的に寄与することを期待している旨が述べられた。また、我が国が責任あるエネルギー政策を再構築すべく検討を進めていること、それに係る我が国の原子力政策の状況が紹介された。(開会・歓迎挨拶は添付3を参照)

(2)カントリーレポート

各国代表より、各国におけるFNCA活動を含む放射線利用の幅広い成果や、今後の研究開発計画、エネルギー政策、原子力発電の導入・新增設計画、基盤整備の計画等が紹介された。

(3)活動報告

町FNCA日本コーディネータから、FNCAの下で進められている10件のプロジェクトの活動報告があった。特に放射線利用分野のプロジェクトでの注目すべき成果としてフィリピンでの「バイオ肥料の商用化開始」、「子宮頸がんの放射線治療による生存率の向上」が紹介された。今後に向けた活動提案として、FNCA コーディネータとプロジェクトリーダー間の年次会合を開催し、双方向の情報共有を進めていくことが提案された。

また、今年8月に開催された「原子力発電のための基盤整備に向けた検討パネル」第5回会合結果について、パネル会合議長の尾本東工大特任教授より、福島第一原発事故の現況、新規制基準の情報共有、EPR(緊急時対応・準備)、核セキュリティ、ステークホルダー・インボルブメント、中小型炉開発に関する討議が行われたこと、今後のテーマとして中小型炉開発、TSO(技術支援機関)、福島第一原発対応状況、ステークホルダー・インボルブメント等があることが報告された。

(4) 円卓討議

「FNCAプロジェクトの成果の活用」：FNCA プロジェクトの研究成果をいかに実用化に繋げるかとの課題を討議した。まず、町 FNCA 日本コーディネータより、日本では放射線利用(含、アイソトープ)の市場が原発市場に匹敵する規模がありながら、アジア諸国ではFNCA プロジェクトの研究成果が商用化に繋がりにくいとの課題が報告され、対策として研究部門とエンドユーザー部門を結びつけるコーディネーション委員会の設立が提案された。フィリピンより、プロジェクト成果のエンドユーザーへの連携策として、「技術移転法(2009年)」による研究側への成果報酬分配などが紹介された。マレーシアから、バイオ肥料での成功例の紹介、カザフスタンから商業化組織として「原子力技術パーク」の紹介があった。山本大臣より、福島第一原発事故以降は慎重な発信にならざるを得ないが、FNCA の成果は顕著であり、継続的に普及に取り組むことが重要であるとのこと発言があった。

「核セキュリティ文化の醸成」：核セキュリティの重要性と文化に関する理解の醸成を目的とした討議を行った。まず、ビダル・IAEA 核セキュリティ課長より、核セキュリティ文化の構築には訓練、教育に加えて「マネジメント・システム」と「個人の行動」に関する自己診断の重要性が指摘された。インドネシアより、同国原子力庁研究所にて 800 人を対象に実施された「自己診断」の成功事例が紹介された。韓国、モンゴル、カザフスタン、中国より自国での取組状況と課題が紹介された。山本大臣より、核セキュリティ文化の醸成というチャレンジングな課題を取上げたことへの高い評価とともに、良好事例を積み上げるというアプローチの提案があった。文科省から、核セキュリティ文化醸成へ向けた以下の取組が提案された； 日本原子力研究開発機構核不拡散・核セキュリティ総合支援センター (ISCN) がIAEAの協賛で2014年に日本で実施するセミナーへのアジア諸国の参加、FNCA 各国でベストプラクティスを FNCA ウェブサイトにて共有。

7. 決議の概要 (決議全文は添付4及び添付5を参照)：

以上の議論を踏まえ、以下のような決議を採択した。

- 原子力発電の基盤整備に向けて、福島第一原発事故の教訓の共有、継続検討テーマであるステークホルダー・インボルブメント、緊急時対応と地域協力、及び新規テーマである中小型炉の検討での協力を進める。
- 人材育成計画に関与する上級行政官の参加するワークショップ通じ、各国の人材育成機会の見直しを奨励する。
- 放射線利用分野、特に天然高分子の放射線処理、バイオ肥料、放射線育種に関するFNCA の成果の実用化を加速させるため、エンドユーザーとのネットワークの構築に努める。

- FNCA プロジェクトの一層の生産性向上と協力強化のため、各国にてプロジェクト毎の運営委員会とプロジェクトリーダー会合の設立を奨励する。
- 各国政府及び関連ステークホルダーによる、国際的なベストプラクティスに沿った核セキュリティ文化の醸成を奨励する。

8. 議長声明 (議長声明全文は添付6及び添付7を参照)

会合議長である山本大臣より、既に14年にわたるFNCAの活動の重要性は今国会合でも確認されたものの、その地道な取組を更に世界に発信していくことが課題であるとの指摘があり、今次会合の閉会にあたり、「核セキュリティ文化の醸成」、「FNCAプロジェクトの成果の活用」、「原子力平和利用とアジア地域の発展への貢献」の3点についての議長声明が発出された。

以上

第14回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合 各国代表出席者

オーストラリア

Ms. Nadia LEVIN(ナディア・レビン)

オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)政府・国際・対外関係統括マネージャー

バングラデシュ

Mr. Abu Sayeed Mohammad FIROZ(アブ・サイード・モハンマド・フィロス)

バングラデシュ原子力委員会(BAEC)委員長

中国

Mr. LONG Maoxiong(ロン・マオション)

中国核能行業協会(CNEA)副事務局長

インドネシア

Prof. Dr. Djarot Sulistio WISNUBROTO(ジャロット・スリスティオ・ウイスヌブROTO)

インドネシア原子力庁(BATAN)長官

カザフスタン

Dr. Erlan G. BATYRBEKOV(エルラン・G・バティルベコフ)

カザフスタン国立原子力研究所(NNC)総裁

韓国

Mr. Hai Joo MOON(ヘジュ・ムン)

韓国未来創造科学部(MSIP)宇宙原子力技術局局長

マレーシア

Mr. Ewon EBIN(エウォン・エビン)

マレーシア科学技術革新省(MOSTI)大臣

モンゴル

Mr. SAINBILEG Chuluunbat(サインビレク・チョローンバト)

モンゴル内閣官房副長官

フィリピン

Dr. Ameria P. Guevara(アメリア・P・グエバラ)

フィリピン科学技術省(DOST)副大臣

タイ

Dr. Somporn CHONGKUM(ソンポーン・チョンクム)

タイ原子力技術研究所(TINT)所長

ベトナム

Mr. LE Dinh Tien(レ・ディン・ティエン)

ベトナム科学技術省(MOST)副大臣

第14回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合プログラム

日 程 : 2013年12月19日(木)
 場 所 : 東京 三田共用会議所 国際会議室
 主 催 : 内閣府、原子力委員会
 会合議長 : 山本 一太 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)
 使用言語 : 英語

9:20 - 9:40 参加登録

9:40 - 10:15 **セッション1:開会セッション(35分)**

セッション議長:近藤 駿介 原子力委員会委員長

- 1) 開会・歓迎挨拶: 山本 一太 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)(5分)
- 2) 参加者自己紹介(20分)
- 3) プログラム確認:近藤 駿介 原子力委員会委員長(5分)
- 4) 上級行政官会合報告: 中野 節 上級行政官会合議長(5分)

10:15 - 10:25 集合写真(10分)

10:25 - 11:25 **セッション2:カントリーレポート(60分)**

セッション議長: レ・ディエン・ティエン科学技術省副大臣(ベトナム)

- 1) 各国発表(各5分)

11:25 - 11:40 コーヒーブレイク(15分)

11:40 12:20 **セッション3:FNCA 活動報告(40分)**

セッション議長:ソンポン・チョンクム原子力技術研究所所長(タイ)

- 1) FNCA プロジェクトの活動状況:町 末男 FNCA 日本コーディネーター(20分)
- 2) 第5回「原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル」報告:
尾本 彰 東京工業大学特任教授(20分)

12:20 - 13:30 **内閣府主催昼食会**

13:30 13:55 **セッション4:東京電力福島第一原子力発電所の現況と今後(25分)**

セッション議長:アブ・サイド・モハンマド・フィロス原子力委員会委員長(バングラデシュ)

- 1) 東京電力福島第一原子力発電所の現況 - 汚染水問題と廃炉に向けた取組:
中西宏典 経済産業省大臣官房審議官(エネルギー・技術担当)(15分)
- 2) 質疑応答(10分)

13:55 - 14:40 **セッション5:円卓討議1「FNCA プロジェクトの成果の活用」(45分)**

セッション議長:エウォン・エビン・科学技術革新省大臣(マレーシア)

- 1) リードスピーチ:町 末男 FNCA 日本コーディネーター(15分)
- 2) リードスピーチ:デラ・ロサ・フィリピン原子力研究所所長(フィリピン)(15分)
- 3) 討議(15分)

14:40 - 15:25 **セッション6：円卓討議2「核セキュリティ文化の醸成」(45分)**

セッション議長：近藤駿介原子力委員会委員長

- 1) リードスピーチ：カルロス・トーレス・ビダル IAEA原子力安全セキュリティ局核セキュリティ室予防課課長(15分)
- 2) リードスピーチ：ジャロット・インドネシア原子力庁長官(インドネシア)(15分)
- 3) 討議(15分)

15:25 - 15:45 コーヒーブレイク(20分)

15:45 - 16:45 **セッション7：決議及び会合サマリーに関する討議(60分)**

セッション議長：アメリア・P・グエバラ科学技術省副大臣(フィリピン)

- 1) 決議案の提示：近藤 駿介 原子力委員会委員長(10分)
- 2) 決議について討議及び採択(20分)
- 3) 会合サマリー案の提示：近藤 駿介 原子力委員会委員長(10分)
- 4) 会合サマリーについて討議及び採択(20分)

16:45 - 17:05 **セッション8：閉会セッション(20分)**

セッション議長：近藤 駿介 原子力委員会委員長

- 1) 次回開催国挨拶(5分)
- 2) 議長声明と閉会挨拶：山本 一太 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)(15分)

第14回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合
山本大臣 開会・歓迎挨拶
平成25年12月19日(木)

(冒頭:歓迎の辞)

御列席の大臣閣下、各国代表、そして全てのご出席の皆様、第14回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合の開催に当たり、日本政府を代表し、一言ご挨拶申し上げます。アジア各地から FNCA 第14回大臣級会合にご出席いただき感謝申し上げます。

(我が国の原子力を取り巻く状況)

まず、日本の原子力エネルギー政策についてお話します。2011年に起こりました東京電力福島第一原子力発電所の事故を防げなかったことを真摯に反省し、二度と事故を起こさないという強い決意と、核不拡散体制強化へのコミットメントの下に、我が国は、「2030年代に原発稼働ゼロを可能とする」という前政権の方針を見直し、責任あるエネルギー政策を再構築すべく検討中です。

今後、省エネや再生可能エネルギーの導入等により、原子力発電所の割合が低減する一方で、エネルギーの安定供給、コスト低減等の観点から、引き続き、原子力発電は重要なベース電源と位置付け、現在停止している原子力発電所については、安全が確認されれば活用する意向です。昨年9月に新たに発足した原子力規制委員会において、現在、14基の原子炉が新規規制基準への適合性審査の申請をしております。

また、福島第一原子力発電所事故により、原子力をめぐる我が国の環境が大きく変化したことを踏まえ、原子力委員会の役

割を再検討し、今後、一部の業務を廃止するとともに、原子力の平和利用・核不拡散や放射性廃棄物の処理・処分等に取り組むべき事項とするなど、抜本的な組織見直しを進めています。

福島第一原発の状況につきまして、詳細は、本日午後のセッションでご報告しますが、現在、汚染水の影響は福島第一原発港湾内 0.3 平方キロメートルに留まっております。汚染水問題を根本的に解決することが急務との認識の下、政府が前面に出て、責任を持って必要な対策を実行しております。廃炉に向けた取組は工程表に沿って、先月11月 18 日より、4号機の使用済燃料プールから核燃料の取出しを開始しました。取出し作業は順調に進んでおります。

(FNCAの取組)

FNCAは、アジア諸国の原子力分野での協力を効率的かつ効果的に推進する目的で始まった原子力科学技術の平和利用のための枠組みです。参加12か国がイコールパートナーシップの下、原子力分野の協力活動を進めていることを改めて想起したいと考えます。

FNCAの下で実施している医療、産業、環境分野等の各分野でのプロジェクトは、着実な成果を生み出しており、それらの成果は、アジア地域の社会経済的発展と福祉向上に貢献していることを高く評価したいと考えます。その1つの例は放射線によるがん治療方法の確立です。

また、パネル会合では、原子力発電の基盤構築に関する情報共有を行うなど、アジア地域における最高水準の原子力安全の確保に貢献しています。これは世界で最も電力需要が拡大しているアジア地域にとって極めて重要なことです。

(結語)

本日の会合では、円卓討議として、2つのテーマについて議論いただきたいと考えております。一つ目は、「各プロジェクトの成果の活用」です。個々のプロジェクトは、その技術的成果について既に評価を得ておりますが、それらの便益をエンドユーザの手に届けることには未だ課題があります。是非、皆様と知恵を出し合ってプロジェクトの成果を普及・商用化するための方策を見出したいと考えます。

2つ目は、「核セキュリティ文化の醸成」です。昨今の国際社会では、核セキュリティの重要性が非常に高まっております。核セキュリティ体制の強化に向けて、皆様のリーダーシップにより、核セキュリティ文化を定着させる方策を討議したいと考えます。

各国の社会経済的発展と国民の福祉に寄与する原子力科学技術分野の活動が FNCA の取組により、一層効果的なものとなることを期待して私の開会挨拶と致します。

御清聴ありがとうございました。

Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA)
14th Ministerial Level Meeting
Resolution

We, the Heads of Delegations of FNCA member countries, the Commonwealth of Australia, the People's Republic of Bangladesh, the People's Republic of China, the Republic of Indonesia, Japan, the Republic of Kazakhstan, the Republic of Korea, Malaysia, Mongolia, the Republic of the Philippines, the Kingdom of Thailand, and the Socialist Republic of Viet Nam,

1. Recalling that the resolution adopted at the 13th Ministerial Level Meeting held in Jakarta in November 2012 encouraged the creation of networks between the nuclear technology applications sector and end users for peaceful use of nuclear technology, which, as one of the FNCA's future roles, should contribute to economic growth of the member countries,
2. Recognizing the importance of sharing the experience and lessons learned from the accident at the TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (hereafter "the Fukushima accident") with the international community and welcoming Japan's effort to continuously communicate such information with transparency
3. Recognizing that based on the 13th Ministerial Level Meeting held in Jakarta in November 2012, the FNCA Study Panel held in Tokyo in August 2013 conducted a valuable discussion on nuclear infrastructure development of member countries including such topics as Emergency Preparedness and Response (EPR) in the Asian region, nuclear security and stakeholder involvement,
4. Recognizing that, among radiation utilization projects that have good potential to contribute to development of sustainable agriculture, "Radiation Processing on Natural Polymers", "Biofertilizer" and "Mutation Breeding" have reached the stage of practical use, however the achievements have not been commercially realized,
5. Stressing that involvement of senior officials in charge of human resources development is important to strategically build human resources which are

essential in promoting radiation utilization and peaceful use of nuclear energy and enhancing 3S (Safety, Security and Safeguards),

6. Recognizing importance of synergies among projects for further sustainable development of the FNCA framework and for delivery of new outcomes,

Decided to work continuously toward:

- 1) Continuing to share lessons learned from the Fukushima accident, especially by way of the FNCA Study Panel, and pursuing further cooperation toward nuclear infrastructure development among FNCA member countries, which includes studies on such ongoing themes as stakeholder involvement, EPR and its regional collaboration and nuclear safety related infrastructure enhancement, and new themes such as safety, economics and waste disposal issues with SMR,
- 2) Encouraging a review of nuclear human resource development opportunities within each of the member countries through a workshop including senior officials involved with policy and planning human resources development, and budget allocations, to ensure the human resources development project can be carried out more effectively and beneficially,
- 3) Striving further to build a network with potential end users to accelerate the practical use and commercialization of FNCA achievements in the radiation utilization area and consequently contribute to socio-economic benefits, in particular, in the sub-topic areas of Radiation Processing on Natural Polymers, Biofertilizer and Mutation Breeding, which have developed technologies that can be put into practical use in sustainable agriculture,
- 4) Encouraging each country to create a steering committee for each project and a meeting of Project Leaders to share information and enhance project activities, and to further pursue higher productivity of the projects and closer cooperation among different projects through that meeting.
- 5) Encouraging each country's government and its nuclear stakeholders to build a nuclear security culture in line with international best practices as a response to nuclear security concerns arising in the world.

第14回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合 決議（仮訳）

我々、FNCA 参加 12 カ国（オーストラリア連邦、バングラデシュ人民共和国、中華人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、タイ王国、およびベトナム社会主義共和国）の代表は、

1. 2012 年 11 月にジャカルタで開催された第 13 回大臣級会合において、今後 FNCA が果たすべき更なる役割として、各国の経済発展に寄与する原子力の平和利用を更に推進するために、放射線利用技術に関する部門とエンドユーザーとのネットワークを構築することを奨励することが決議されたことを想起し、
2. 東京電力福島第一原子力発電所事故で得られた経験と教訓を国際社会と共有することの重要性を認識し、日本が透明性の確保をしそれらの情報を継続的に公開することを日本に期待し、
3. 2012 年 11 月にジャカルタで開催された第 13 回大臣級会合の決議に基づき、2013 年 8 月に東京で開催されたパネル会合において、アジア地域における緊急時対応、核セキュリティ、ステークホルダー・インボルブメントなど、参加国の原子力基盤整備に関する有意義な討議を評価し、
4. 農業の持続的な発展に貢献する放射線利用プロジェクトの中で、「天然高分子の放射線加工」、「バイオ肥料」、「品種改良」は実用性の段階に達しているものの、それらの成果が商業化に至っていない事を認識し、
5. 放射線利用や原子力エネルギーの平和利用の推進や 3 S（原子力安全、核セキュリティ、保障措置）の強化にとって必要不可欠な人材養成を戦略的に実施するためには、人材育成に責任を有する上級行政官の関与が重要であることを強調し、
6. FNCA におけるプロジェクト間の連携を促進することにより、それらのシナジー効果によって新たな成果を生み出すことが、FNCA の更なる発展にとって重要であることを認識し、

今後とも以下のことを目指して活動することを決定した。

- 1) 福島第一原子力発電所事故からの教訓の共有を、特に、パネル会合にて継続し、またステークホルダー・インボルブメント、緊急時対応（EPR）及び地域協力、原子力の安全性向上に関連した基盤整備の課題を継続するとともに、新しい課題である中小型炉の安全性、経済性、廃棄物処理等に関して検討するなど、FNCA参加国の原子力基盤整備に向けて一層の協力を進める。
- 2) 人材養成プロジェクトについては、プロジェクトをより効果的かつ有益なものとするために、人材育成方針、計画、資金の決定に関わる上級行政官が参加するワークショップにて各国の原子力人材の育成機会の見直しを奨励する。
- 3) 放射線利用分野に関するFNCAの成果、特に、実用可能で持続的農業に貢献出来る技術が得られている「天然高分子の放射線加工」、「バイオ肥料」、「品種改良」については、成果の普及・商業化を促進し、社会経済の向上に寄与するために、エンドユーザーとのネットワークの構築など更なる努力を行う。
- 4) プロジェクトの活動強化及び情報共有のために、プロジェクト毎の国内運営委員会やプロジェクトリーダーを招集した国内会合の設立を奨励するとともに、それらの活動を通じて、プロジェクトの効果的な推進、異なるプロジェクト間の連携・協力を図る。
- 5) 核セキュリティへの関心が世界的に高まっていることに対応して、各国の政府及び原子力関連のステークホルダーによる、国際的なベストプラクティスに沿った核セキュリティ文化の醸成を奨励する。

The 14th FNCA Ministerial Level Meeting
Chair's Statement
By Mr. Ichita YAMAMOTO
Minister of State for Science and Technology Policy
December 19, 2013

On the 19th of December 2013, Japan will host the 14th FNCA Ministerial Level Meeting. The meeting was attended by 12 countries in the Asian region. In closing the meeting, the chair of the meeting will issue a statement.

<Nuclear Security Culture Development>

We recognize the all-too-real threat of possible terrorist attacks on nuclear facilities, and we also recognize that nuclear security is the government's responsibility; we have reconfirmed importance of government leadership in security culture development. We have discussed concrete activities such as seminars and workshops that are to actively supported and encouraged through government leadership to raise nuclear security consciousness of nuclear operators and nuclear facility employees.

Japan has proposed the following three initiatives to build nuclear security culture:

1. Japan will host a training course for participants from Asian countries in late 2014, to be conducted by the Integrated Support Center for Nuclear Nonproliferation and Nuclear Security (ISCN) of the Japan Atomic Energy Agency (JAEA), under the co-sponsorship of the IAEA.
2. Japan will support FNCA member countries to build nuclear security culture through the activities of the ISCN.
3. Japan will offer utilization of the FNCA website so that initiatives and best practices of nuclear security culture development can be shared among FNCA member countries.

<Utilization of FNCA Project Achievements>

Thanks to the wisdom and efforts of FNCA member countries, radiation applications in the fields of health care, industry, and environment have demonstrated solid achievement and contribute to the social and economic development and welfare of the

Asian region. In particular, we highly appreciate that projects such as “Protocol for Cervical Cancer”, “Biofertilizer by Radiation Sterilization”, and “Mutation Breeding for important crops resistant to diseases” have reached the stage of practical use. We agreed that the leaders of member countries will proactively promote commercialization of other projects and bring real benefits to end users.

<Peaceful Use of Nuclear Science and Technology and Its Contribution to the Prosperity of Asia>

We recognize that the FNCA is a valuable framework to contribute to the social and economic development and welfare of the Asian region and to build nuclear power infrastructure to maintain the highest level of nuclear safety in the Asian region.

FNCA member countries welcome Japan’s efforts to continuously communicate lessons learned from the accident at TEPCO’s Fukushima Daiichi Nuclear Power Station and to recognize that such information will contribute to improvements in safety to the nuclear infrastructures of FNCA member countries.

**第 14 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合
議長声明（仮訳）
山本一太 内閣府特命担当大臣（科学技術政策）
2013 年 12 月 19 日**

2013 年 12 月 19 日、日本主催により第 14 回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）の大臣級会合が開催された。アジア地域から 12 か国が参加した。第 14 回 FNCA 大臣級会合を終えるにあたり、議長より以下の通り述べる。

（核セキュリティ文化の醸成）

原子力施設等を標的としたテロが現実にかかる可能性が高いという脅威を認識し、核セキュリティは国の責務であること、そのための文化醸成にも国が主導的な役割を果たすことの重要性を確認した。各国政府が主導して原子力事業者や原子力施設勤務者の関係者に対し、核セキュリティへの意識向上のためのセミナー、ワークショップ等の具体的な活動に関して議論した。日本からは、以下 3 点のイニシアチブが提案された。

- 1 . 日本原子力研究開発機構核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）を通じ、来年末に IAEA との共催による、アジア諸国を対象とした研修を日本で実施する。
- 2 . FNCA 各国における核セキュリティ文化を醸成する取組を、ISCN を通じて支援する。
- 3 . FNCA のウェブサイトを活用し、核セキュリティ文化に関する各国の取組状況やベストプラクティスを共有する。

（FNCA プロジェクトの成果の活用）

放射線を利用した医療、産業、環境分野等のプロジェクトでは、FNCA 参加国の知恵と努力より、着実な成果を生み出しており、地域の社会経済的発展と福祉向上に貢献している。特に、「放射線による子宮頸がん治療」、「放射線滅菌によるバイオ肥料」、「バナナの耐病

性育種の育成」などのプロジェクトは既に実用に供されていることを高く評価する。今後、他のプロジェクト成果についても、その便益をエンドユーザの手に届けるための更なる普及、商用化の方策を、FNCA 参加国のリーダーが積極的に推進することを再確認した。

（原子力平和利用とアジア地域の発展への貢献）

FNCA が、アジア地域の社会経済的発展と福祉向上に貢献するとともに、アジア地域で最高水準の原子力安全を確保するための原子力基盤整備に関する有意義な枠組であると考えている。また、福島第一原発事故の経験と教訓に関し、日本が透明性の高い情報公開を継続することを歓迎し、それらの情報が FNCA 参加各国の原子力基盤の安全性向上に資することを確認した。